

令和3年6月2日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ハスモンヨトウの発生に注意が必要です

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、5月中旬以降増加がみられ、5月下旬には地域によって急増し、平年よりも多い誘殺が確認されています（図1、2）。また、本年は3月以降の気温が平年よりも高く推移していることから、ハスモンヨトウの発生時期も平年より早くなっています。

本虫は高温乾燥で発生が助長されますが、1ヶ月予報（5月27日・福岡管区气象台発表）によると、5月29日以降の気象は気温が高い確率が50%と予報されています。今後は、圃場でのハスモンヨトウの発生状況に注意し、早期防除に努めてください。

【作物】 野菜類（アブラナ科野菜（キャベツなど）、ネギ、サトイモ、カンショ、イチゴ（育苗））

【病害虫】 ハスモンヨトウ

防除上の注意事項

ア 本虫は卵塊で産卵するため、孵化後に集団で葉を食害し、その後成長とともに分散します。本虫は分散すると薬剤がかかりにくく、老齢になるに従って薬剤の効果が低下するので、早期防除に努めてください。

イ 野菜類では、育苗期や定植直後に発生すると被害が大きいため、こまめに見回り、発生初期の防除に努めてください。

ウ 施設栽培では、開口部に防虫ネットを張り、成虫の侵入や産卵を防止してください。

エ 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。

ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>



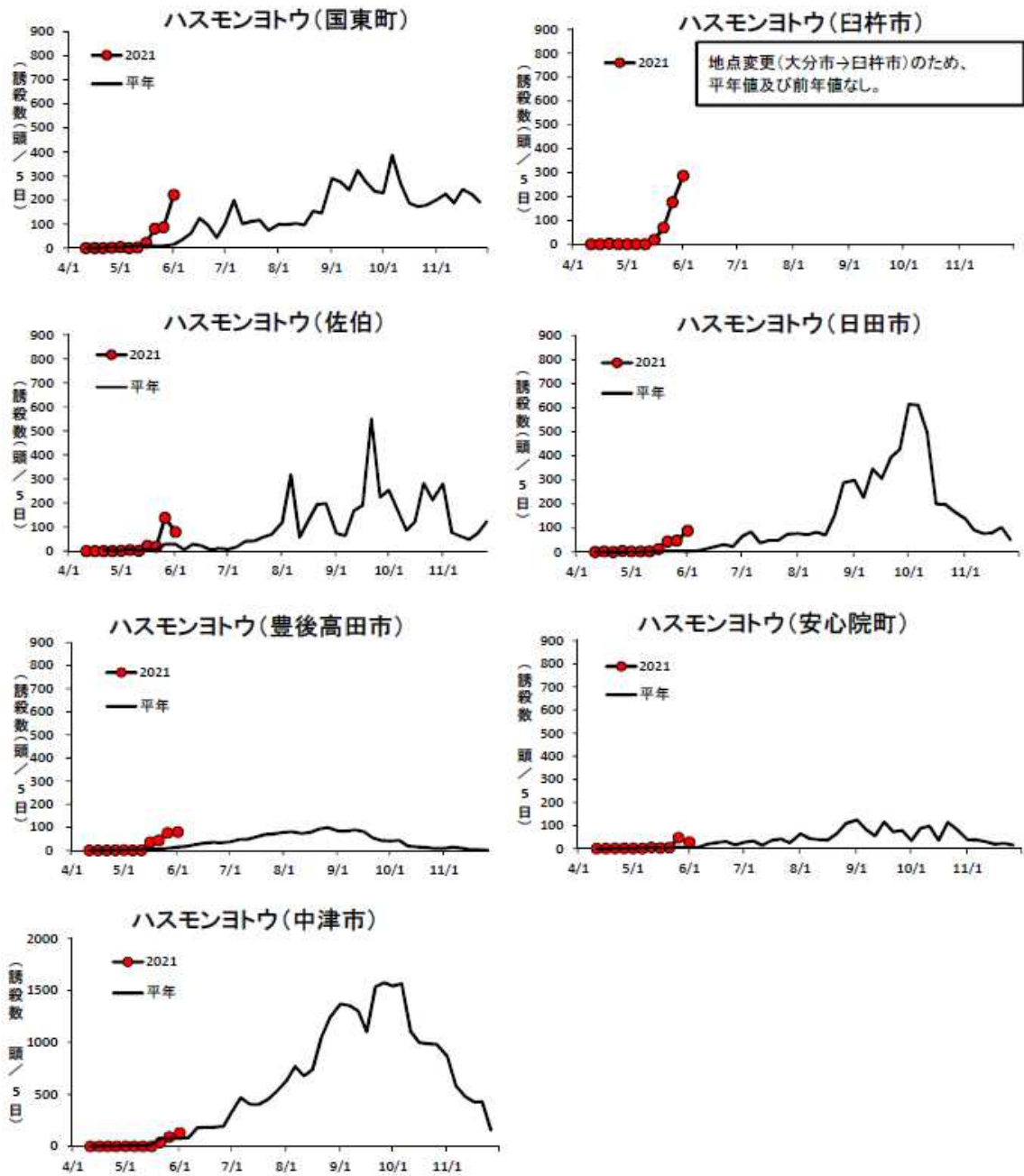


図1 県内各地におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

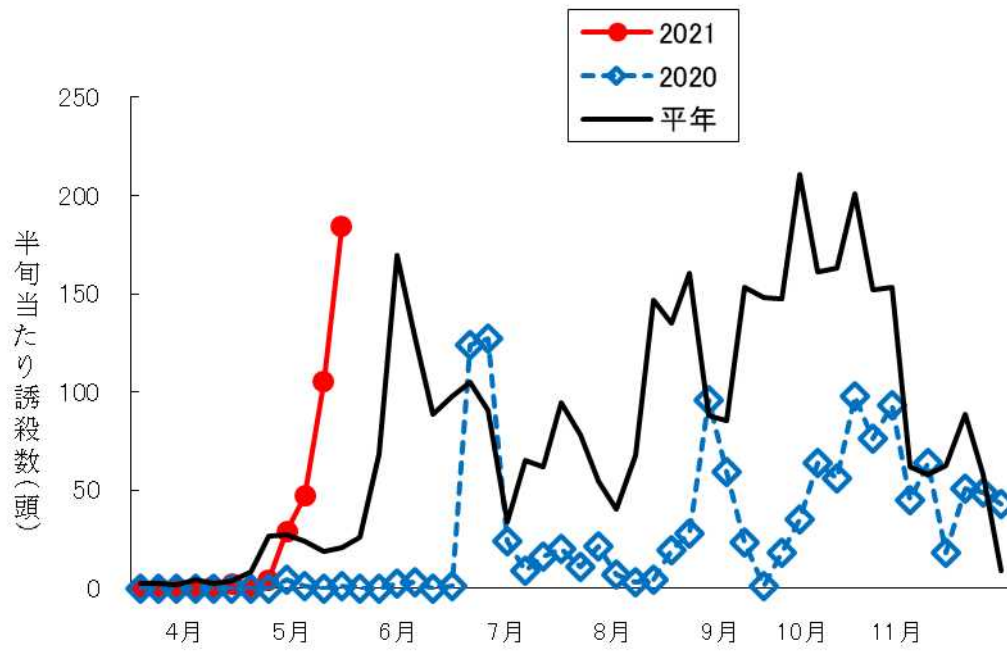


図2 農業研究部（豊後大野市三重町）におけるハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況